

「ドンドン語ろう！ in植木」 平成30年4月26日 植木文化センター多目的ホール 意見交換内容 参加者：61名

No.	ご意見	回答	局	担当課
1	<p>・九州都市中学生交流大会について 昨年の夏に九州都市中学生交流大会に参加した。九州都市中学生交流大会は昨年で終わってしまったが、この経験は自分にとってとても身になる経験であったので、後輩のためにも大会の継続を願う。</p>	<p>【市長】 九州都市中学生交流事業は平成10年度に熊本市・鹿児島市・宮崎市・大分市・北九州市・佐賀市の6都市で始まった。しかし、平成21年度に北九州市と佐賀市が離脱し、平成22年度から4都市に。平成28年は主催都市である大分市が地震で被災し中止になったものの、平成29年度に再開。しかし今年度は大分市・宮崎市から離脱の表明があり、鹿児島市と熊本市での2都市では実施ができないということで、事業自体が廃止になったもの。 しかし、ほかの都市の中学生がどういうことをやっているのか、何を考えているのかについて交流するのは有意義なことだと思う。また違う形で若い世代の交流ができないかを今後検討し、九州市長会等でほかの都市の皆様働きかけいろいろ話してみたいと思う。今年中の実現は困難だが、皆さんの後輩たちが交流できるよう再度考えてみたいと思う。</p>	教育委員会	青少年教育課
2	<p>・公民館講座の活性化について 中国の大連市の出身で、熊本に住んで25年になる。現在、地元の公民館で中国語・太極拳の講師をしている。公民館の予算を増やしてほしい。予算を増やすことで、どのような講座があるのか、どのように活動しているのかを皆さんに知らせて参加のきっかけをつくり、より多くの方に参加してもらいたいと思っている。また、高齢者には体を動かしてもらうことで健康年齢を伸ばしてあげたい。また、社会教育主事の先生方は、私たち講師の気持ちと行政の気持ちの両方を理解してくださり、いつも熱心で温かい気持ちで迎えてくれ、欠かせない存在であると思っている。これからも社会教育主事の先生方の活動に期待したい。</p>	<p>【市長】 公民館の予算を増やしてほしいということだが、現在まちづくりセンター・公民館等の役割を再構築の中で、公民館をどうやって多くの人に利用してもらうか、どんな講座があるのか知ってもらうかについて内部でも検討し始めているところである。予算も含めて、全体的に公民館活動がどのくらい活性化していくのか検討し、また一部の人たちだけでなく多くの新しい方々に参加してもらいたい。語学の勉強や生涯学習のことや健康を維持するための講座などいろいろある。健康年齢を延ばすためにも大事なこと。熊本市は介護保険料が上がったが、これは介護事業を使う人が多いということ。その分保険料も上がってしまう。予算の問題もあるが、やはり公民館のあり方そのものを分析し、見直しなどについて検討中である。そして、社会教育主事の役割はこれからとても重要であり、今後も講師の先生方との調整・パイプ役にもなってほしい。</p> <p>【生涯学習課 追記】 現在、まちづくりセンターの地域担当職員と公民館の社会教育主事が連携し、地域課題を解決するための講座の開催等に取り組んでいるところ。 今後も、人生100年時代を見据え、すべての人が生涯を通じて学び、活躍できる環境整備を進める。</p>	市民局	生涯学習課

「ドンドン語ろう！ in植木」 平成30年4月26日 植木文化センター多目的ホール 意見交換内容 参加者：61名

No.	ご意見	回答	局	担当課
3	<p>(1) 植木地域コミュニティセンターの旧管理人室について 植木地域のコミュニティセンター(以下：コミセン)には旧管理人室というものが あり、公民館時代のトイレや台所のある住み込みの管理人室である。これについては 3年ほど前から私どもが改修をお願いしている。しかし、いまだ担当課からの回答は 検討といったこともなく、何も進んでいない状態である。今の状態では、畳や窓等使 い勝手が悪く、倉庫となっている状態である。先ほどの市長の話であったように、植 木コミセンでは寺子屋事業をはじめた。ほかにもいろんな事業に取り組んでいる。ぜ ひ、新しく事業を展開していくためにも、倉庫として使っている管理人室を早急に利 活用できるように早めに改修をお願いしたい。</p> <p>(2) コミセンの指定管理料について コミセンの指定管理料の引き上げについて検討してもらいたい。現在240万円 で熊本市の指定管理者制度に基づき運営委員会が委託を受け運営管理しているが、指 定管理料は10年以上前から変わっていないと聞いている。電気代・公共料金・消費税 の引き上げ等の変更はあっている。私どもはコミセンにおいて寺子屋事業・ほかの事 業も進めたいと思っており、普段から校区自治協議会と一緒に地域防災連絡会 等の中心メンバーとなって地域の拠点・各拠内まちづくりに取り組んでいる。指定管 理制度で熊本市の施設管理費削減でなく、施設を管理している職員等の待遇改善のた めにも、引き上げについて検討してもらいたい。</p>	<p>【区長】 コミセンの管理人室については、改修するという話は聞いていた。しかし、その後 地震等の影響でなかなか進んでいないという現状も聞いている。まちづくりセンター ができてからも、コミセンの地域のニーズについてまちづくりセンター所長にも届い ていると聞いている。予算の関係もあるため、本庁とも話をさせていただいている。 植木のコミセンについては、ほかのコミセンとは少し違い特別な課題があるというこ とで、平成29年度から具体的な話についてスタートさせていただいている状態であ る。燃料光熱費の負担など管理人室と指定管理料の話だけでなくいろんな話をさせて いただいている。今後も本庁としっかり話をさせていただきたい。費用の面を考慮す ると、災害復旧を優先させていただいているのが実情であり、お待ちいただきたい。</p> <p>【市長】 私も一度持ち帰り、市民局と検討してみる。どのくらいの費用・時間がかかるの か、調べてみる。コミセンのようなまちづくりの拠点は私もできるだけ充実して皆さ んに活用してもらいたいと思っている。ただ、区長も申したように災害復旧のほうを 優先するということもあるため、いったん持ち帰って後日回答させていただく。</p> <p>【総務企画課 追記】 旧管理人室の改修に関しては後日、発言された方を訪問。 平成28年4月の熊本地震の発災もあり旧管理人室改修についての検討が滞っていた ことについてお詫びして説明を行った。 平成31年度までは復旧復興関連事業が優先されるが、今後に向けては、施設の利用 状況や住民の方々からの要望など具体的に個別事案ごとにお話を伺ったうえで、改修 を含めた利活用の方向性について話し合いを進めていきたい。</p> <p>【地域活動推進課 追記】 発言された方と面談し回答 (H30.5.29) 指定管理料については、利用料金収入もあることから240万円としているが、収入 が少なく運営に苦慮している運営委員会もある。植木地域のコミュニティセンターだ けではなく、市内全コミュニティセンターについて地域の実情や課題などを整理し、 指定管理料だけでなく運営方法も併せて今後どうするかを検討が必要と考えている。</p>	<p>北区役所</p> <p>市民局</p>	<p>総務企画課</p> <p>地域活動推進課</p>

No.	ご意見	回答	局	担当課
4	<p>植木町の観光政策について 今、「西郷どん」ブームで鹿児島・熊本には注目が集まっている。平成18年に観光立国推進基本法が制定され、ソフト面で経済を活性化させることが国の政策と聞いている。合併した北区、南区には観光政策課のような出先の部署がない。北区には、西南戦争資料館、田原坂公園、大変お湯の質がいい植木温泉。小野小町の伝説、日本一のスイカなどがあり、観光客を地元へ誘致する材料はたくさんあると思われる。北区の観光政策をどう考えているか。</p>	<p>【市長】 北区、各区役所には観光を取り扱う部署はない。議会では答弁させていただいているが、ストーリー性のある観光政策を行っていかねばならないと考えている。例えば、今は西郷どんをやっているので西南戦争を考えるいい機会である。 また、田原坂は日本赤十字の発祥の場所であるが、イタリアにあるソルフェリーノの丘は国際赤十字の発祥の地である。ソルフェリーノの丘と田原坂が連携できないかと赤十字に話した際には、是非やりましようと言っていた。 その後、熊本地震があり、途中ではあるが、イタリアから連携したいとの声をいただいた。田原坂とソルフェリーノの丘が結びつくことで、世界中で紛争が起こっている中で、いかに平和が尊いものであるかを世界の皆さんに知ってもらうことができる。世界の田原坂になるようなアピールできないかと情熱を持っている。これは時間がかかるかもしれないが、将来的にはイタリアの人が熊本にも来てくれるようにできないか仕掛け作りが必要だと考えているところである。</p>	経済観光局	観光政策課

「ドンドン語ろう！ in植木」 平成30年4月26日 植木文化センター多目的ホール 意見交換内容 参加者：61名

No.	ご意見	回答	局	担当課
5	<p>・植木町の観光政策について 西南戦争戦跡・植木温泉・味取観音等の観光施設について、有機的に結びつけるネットワークのような政策は実施できないのか。</p>	<p>【市長】 施設単体でなく、食や温泉などをいろんなものにつなげていくなど、植木には良い素材があるので、歴史文化と興味が膨らんでいくことになる。私としても、資料館もそうだが、植木のいろいろな観光資源をこれからさらに生かしていくためには具体的なつながりを考えなければならないと考えている。例えば、すいかの里植木と資料館をつなぐなど、観光政策課と一緒に考えていく。</p>	経済観光局	観光政策課
6	<p>・観光ボランティアガイドについて 田原坂資料館には4億数千万円ほどの多額の税金を投入したものの、はたして効果はどうか。私は資料館にてボランティアガイドをやっているが、他県からきたお客は10分～15分見てすぐに帰られる方が多い。効果がどのくらいあるか非常に気になる。以前は売店があったが、今はなく、記念品を買う場所もなく、もったいないと感じる。資料館には約7万人が来場しており、ボランティアガイドを利用される方が1万人ほどいる。ガイドをすれば、お客様はそこに90分滞在され、ガイドを受ければよくわかったといわれる。そのようなボランティアメンバーはほとんど社会的・家庭的にも責任を果たし退職した、年金受給者がやっている。 ただ、ボランティアをするためには経費がかかり、報告書一枚とっても自分たちの年金からだしている状況である。果たしてそれでいいのか。行政側からみたら、それで観光事業をやっているといえるのか。 合併前は植木町に観光協会というものがあり、観光事業に対する補助金が出ていてそれなりの成果があるといわれていた。熊本市には国際コンベンション協会があるが北区はまったく恩恵を受けていない。これでは、後継者も何もできず植木町の観光事業はだんだん消滅していつてしまうのではないかと。再度、観光資源や観光に携わるボランティアについて考えていただきたい。</p>	<p>【市長】 ボランティアガイドをしていただき感謝している。田原坂資料館には売店もないとのことだが、観光客のニーズを含めて調査して、いろんな対応を考えていかなければならないと思う。ボランティアによるガイドは、利用されたお客様にとってはとても印象深いことだと思う。 私は先日、熊本城のよかとこ案内人の会議に出席した。そのときに、確かにボランティアも大事だが、専門的な知識を持った方による有料のガイドがいる取り組みも一部必要なのではないかと話をした。収入を得て、ガイドにかかる経費に回るような仕組みづくりを考えたいと思ったところ。互いに知識の勉強や時間を使われるのであれば、少し料金をいただくようなシステムを行政側で考えていく必要がある。 例えば、ガイドを行う人を登録していただいてその専門知識に合った人にはいくらか。海外であれば博物館をガイドする人がいるが、30分で2万円といった料金がかかるところもある。そこまではないが、何か考えていく。熊本市の観光消費額は九州の中でも低いと、今後これを引き上げていくことも考えたい。今、具体的には言うことはできないが、観光政策の中で必ず考えていく。</p>	経済観光局	観光政策課

「ドンドン語ろう！ in植木」 平成30年4月26日 植木文化センター多目的ホール 意見交換内容 参加者：61名

No.	ご意見	回答	局	担当課
7	<p>・植木総合スポーツセンターについて 市長の説明で高齢化が今後こうなるという説明があったが、今の山本がその状況である。農業が盛んな地域のため住宅地ができるという地域ではなく、高齢化が進んでおり小学生もだんだん減ってきている。現在90名弱。子供たちを増やしたいと考える。また農業地域なので開発はできない。 そこで、山本にある植木総合スポーツセンターを活用してはどうか。現在使っているのはグラウンドと武道館だけで、体育館は地震の影響で使用できない状況である。そのような中、今年度新しく植木総合スポーツセンターができるのであれば、山本のスポーツセンターを市で維持管理するのはどうかと思う。たとえば地元の企業に社宅として利用できるようにし、処分してはどうか。小さな子どもたちが長くいてくれるよう、住宅地よりも社宅がいい。売却益、固定資産税などメリットもあるのではないかと。ぜひ市でも検討いただきたい。</p>	<p>【市長】 高齢化が進んでいるということで、地域によっては高齢化率は30%以上になっている。お話にあったように公共の施設として使用しなくなったところを、別の資産としていい形で使うということは非常にいいアイデアだと思う。住宅政策はこれから非常に大事で、若い人たちにとって、調整区域であれば開発できないし、安い土地を求めても難しい、家も建てられないとあるが、社宅というのはなるほどだなと思った。 ただ、植木総合スポーツセンターにおいては、特に大きな被害を受けた体育館について、植木中央公園へ機能移転する方向で検討をしているが、その他の武道場、グラウンド、テニスコートは既に営業を再開しており、従前どおり利用していただいていることから、現時点ではこの施設を廃止して売却する等の検討は行っていない。 資産マネジメント課という部署があり、熊本市もいろんな資産や施設がたくさんある。これらがこれからどんどん老朽化していく市の施設をどうするかを考えるとともに、資産を上手に活用しながら市民のためにフィードバックするまたは民間の方に売却をするなどして、公民連携しながら市および市民の財産を価値の高いものにしていけないか、考えていく。</p>	<p>経済観光局 財政局</p>	<p>スポーツ振興課 資産マネジメント課</p>

「ドンドン語ろう！ in植木」 平成30年4月26日 植木文化センター多目的ホール 意見交換内容 参加者：61名

No.	ご意見	回答	局	担当課
8	<p>・通学路の道路整備について 「小野の泉水」脇を通る市道の延長約500mの区間は30名程度の小学生が通る道になっている。当区間は歩道がないうえに車の離合も困難な1車線の道路でカーブが多く見通しが悪い道路である。このような状況にもかかわらず、道路の周辺地域が山東コミセンや山東郵便局等との生活道路であることや国道3号等の渋滞をさけた車両の抜け道になっているため、特に通学通勤時に通行が多い。車両事故や子供の事故が心配である。地域をあげて従来から陳情を重ね、現在までに新設および改良部の用地は解決済みであり、新設部の土木工事は既成している状況だが、この数年は進捗がみられない。この1～2年は地震の影響で予算がないと聞いているが、子供の安全確保も非常に大事と考える。工事完成までの計画をお伺いするとともに、事業の推進をお願いします。</p>	<p>【北部土木センター所長】 ・永野小野線、小野の泉水公園の脇を通る道路の今後の計画と事業の推進をお願いしますということだったため、道路の説明からする。 平成21年の新市基本計画に基づいて既存の整備路線として位置づけられた。全長300m、現況約4.5mの道幅を7mへの拡幅を計画している。平成30年度は南側10m区間の整備を予定しているが、指摘のとおり、平成28年・平成29年度については休止をしている。今後は通学路のバイパスということで優先度は高いと認識している。平成33年度の完了を目指し進めていく。</p> <p>【市長】 平成33年度の完成ということだが、着実に進めていきたい。</p>	都市建設局	北部土木センター 植木地域整備室
9	<p>・北熊本スマートインターチェンジ及び基幹農道整備事業について 当地域では北熊本スマートインターチェンジ建設工事が進められているが、地元にとっては進歩がみられることに大変期待している。しかし一方で、同インターチェンジから山東方面へのアクセスがないに等しい状況である。当地域では、熊本県が事業主体である「植木東部地域基幹農道整備事業」が進められているが、インターチェンジの完成時期に比べ大幅に遅れてしまうのではないかとと思われる。この事業が未完成の間は、インターチェンジからの車両が域内の生活道路や通学路を抜け道として通行することによる車両の増加とこれに伴う事故の増加が懸念される。地元としては、当農道の早期完成が待たれるところである。 スマートインターチェンジおよび基幹農道事業を含む山東地域交通について、どのようにお考えかお伺いするとともに事業の推進をお願いします。</p>	<p>【北部土木センター所長】 北熊本スマートインターチェンジ(仮称)について、進捗状況を報告する。 ネクスコ西日本と熊本市の事業主体でやっている。来年の3月に供用開始を目標としてやっている。「先線」といわれるスマートインターチェンジ南側の関連道路については、供用開始後1年を目標に、整備が完了できるよう、現在用地交渉中である。スマートインターチェンジ供用開始後は周辺の幹線道路の交通量の増加が見込まれるが、先線の整備や県道植木大津線の右折レーンの設置などを持って解消を図っていきたいと思う。周辺対策については地域のみなさんの声を聞きながら進めていくように考えている。</p> <p>【農水局長】 ・「植木東部地域基幹農道整備事業」4.5kmは、2024年の完成を目指している。今年の一部の地区で工事を始める予定である。また、北熊本スマートインターも優先的に工事を始める。予算については、昨年度地元の推進協議会の方と一緒に県に要請しているが、国の農業農村関係の整備事業の予算は要望に対して少ないのが現状である。なかでも農道事業は予算が限られているが、国や県に早期の着工・予算の確保を地元の方々と一緒に進めていきたい。</p>	都市建設局 農水局	北部土木センター 道路課 北農業振興課

「ドンドン語ろう！ in植木」 平成30年4月26日 植木文化センター多目的ホール 意見交換内容 参加者：61名

No.	ご意見	回答	局	担当課
10	<p>・吉松校区の指定避難所について 大規模災害時のこともあるが、大雨や洪水の際の避難所について。吉松校区には一級河川の合志川で分断された3地区がある。宝田・舟島・坪尾の3地区。平成24年の九州北部豪雨の際は、舟島橋付近より河川の水がオーバーフローし、浸水をした地区である。この時、幸い人的被害はなかった。現在、吉松校区の指定避難所は植木北中学校と吉松小学校が指定してあるが、2つの避難所とも川の左岸にあるため、右岸側の3地区の住民110世帯が指定避難所への避難が無理な状況にある。右岸側の3地区の住民が避難できる場所を指定していただきたい。</p> <p>例えば、高台にある菊池市（工業団地）、植木温泉地区にある養護老人ホーム「愉和荘」などを避難所にしてほしい。コミュニティーセンターを補助避難所としているが、大規模災害時には避難所が不足する。吉松校区自治協議会としては、本年度は校区防災連絡会と避難所運営委員会の設立を予定している。避難場所の確保・また情報共有のため、また住民の安心のために避難所の指定をお願いする。</p>	<p>【市長】 ・避難所のことで心配だろうと思う。私たちが校区防災連絡会の設立を促進しており、その中で、指定避難所の状況・在り方について見直しをしているところである。愉和荘については災害救助法の適用があった場合の福祉避難所になっており、一般の避難所において何らかの特別な配慮を必要とする、高齢者・障がい者（児）・乳幼児・妊産婦等の要配慮者が、市の案内により一般の避難所から移動し、二次的に避難するところなので、一般の避難所に指定するのは難しい。一方で、菊池市の施設（隣接）を避難所にできないかについては菊池市と協議することは大事だと思う。菊池市長、あるいは市の担当部署から菊池市の担当部署へ話をしてみる。行政区域は、いざ災害が起こったときには関係なく、一番安全に避難できる場所を確保することが大切だと思う。熊本地震の際は、熊本市の避難所として171箇所を指定していたが、屋根が落ちてきて使えないなど、そのうち25箇所が使用不能になった。また、指定避難所だけでは、容量を超えており、実際指定避難所に避難した人は、避難者数の20数%と思われる。残りの方は車中泊が圧倒的に多く、また軒先避難が多かった。本震後ピーク時に開設された避難所は267箇所だった。このように、あらゆる場所で見なさんが避難されていた。菊池市も含めて、地域にあった避難場所をどう指定していくか話をしていく必要がある。危機管理のスタッフと一緒に地域で校区防災連絡会と相談しながら進めていきたい。</p>	<p>政策局 健康福祉局</p>	<p>危機管理防災総室 健康福祉政策課</p>
11	<p>・熊本市老人クラブ連合会について 熊本市の人口の推移で高齢化24.5%、30年後は35%になる。計算すると35年には21万3500人になる。これからも高齢化は進んでいく。私は老人クラブ連合会の会長を5年勤めているが、この5年で会員数は100名減少した。高齢化が進んだならば、会員数が増えるのが普通である。このことを桜井校区の自治協議会の中でお願いするが、一向に改善しない。桜井校区は、高齢者1400名。老人会の会員数は450名。5年前は570～580名いた。</p> <p>もうひとつ、桜井校区老人会は、熊本市老人クラブ連合会に所属している。熊本市には高齢者が18万人いる。その中で、昨年会員数は2万人を切った。今年は1万8千人～1万9千人。約1割である。この状態がこれからも進めば、5年後10年後に老人クラブがあるかどうか心配している。なんらかの方策を講じて、支援してほしい。</p>	<p>【市長】 高齢化が進む中で、老人クラブ連合会の方とも話をするが、組織のあり方が難しい状況があると伺っている。例えば、名称をかえてみるなどいろんな話がある。私は今50歳で、新老人の会に入っている。聖路加病院の日野原先生が会長をされていた。名前はともかく、高齢化社会の中で、一緒に健康づくり・生活面での互いの助け合いを行ううえでは老人会などの既存の組織をもっと活性化させていくことが大切ではないかと思う。全国的にそういう課題に直面している。熊本地震を経験してから、人と人のつながりを感じて新しく加入している人もいるため、団体に対する行政としてのサポートもこれから真剣に考えていかねばならない。熊本市老人クラブ連合会なども話をしてもってみたいと思う。</p>	<p>健康福祉局</p>	<p>高齢介護福祉課</p>

「ドンドン語ろう！ in植木」 平成30年4月26日 植木文化センター多目的ホール 意見交換内容 参加者：61名

No.	ご意見	回答	局	担当課
12	<p>・植木中央公園について 私は平成28年度から建設中の植木中央公園の中にオリンピックの正式種目となったスポーツライミングの施設をつくってはどうかと提案してきた。市からは最初の計画になく、つくったとしても運営管理できないから無理ではないかと回答をもらった。しかし、植木町の今後の発展を考えると、交流人口を増やさないといけないし、施設の維持管理の面でも費用の負担がかなりある。その費用捻出のためのこの施設が必要ではないか。スポーツツーリズムとして施設が必要ではないかという思いで改めて市に提案する。</p> <p>一つは、運営管理の面であるが、熊本県山岳連盟に相談したところ、協力・指導をしたり若い子を育ててもいいとの言葉をいただいた。建設費用についても市からの捻出は難しいということで、地元企業・県内企業から協力いただき、市からの負担はないように提案してきた。そのほか市場調査もやった。九州全域からこの施設を使うというデータも出ている。そこで改めて、地元市議会議員の先生からも協力いただき提案したが、やるともやらないともわからない答えが返ってきた。公園ができた後に一度運営してみて考えますとのことだった。今後のスポーツ公園の運営についてどのように考えているか。</p>	<p>【スポーツ振興課長】 ・2年前からつくっているスポーツ施設の中に、オリンピック競技にもなるスポーツライミングの施設の建設提案の話は聞いている。植木中央公園を4月に供用開始としていたため、相談いただいたときには仮に計画を練り直すということになると時期的に間に合わないという話をさせていただいた。新市基本計画に基づき、合併の際の約束ということをしているため、整備を最優先させ、待ってほしいと言った。その後については、スポーツライミングの人口がどのくらいあるのか・需要がどれくらいあるのか調べて、使っていただける施設を見込めるなら改めて実施計画を順次作っていかなければならない。しかし東京オリンピックに間に合うようには難しい。</p> <p>【市長】 スポーツライミングのことは私も何回か話を聞いており、議会でも意見をいただいている。私からはスポーツ政策全般をどう考えているかを答える。 多様なスポーツ種目があり、例えばスポーツライミングはCMでも流れていて注目されており、若い方から年齢の高い方まで楽しられている。このような新しいスポーツは今後も出てくると思うが、それができる場所があると、どんどん盛んになっていく人も育っていきいい循環にもなっていくと思う。現時点では、スポーツ公園の供用開始をさせていただいてから、新しいあり方を考えたい。 健康を考えるうえでもスポーツをしていくことは重要だと考えているので、皆さんから話を聞きながら進めていきたい。今日はこのようにご理解いただきたい。今回嬉しいのは、官民連携でコラボしてやっていくということで、ありがたいお話だと思っている。</p>	経済観光局	スポーツ振興課
13	<p>・鹿児島本線沿いの道路の草について 植木地区は、鹿児島本線沿いの地区が多く、道路に面した箇所の草が整備されず地元で草刈を実施している状況であるため、その状況を改善してほしい。高齢化が進み私たちではだんだんできなくなっている現状である。</p>	<p>【北部土木センター】 JRの所有地ではないかと資料にあるが、これが県道や市道であれば、北部土木センター・植木地域整備室で対応可能である。一度相談にこられて、場所等を教えてほしい。地権者を特定して、もしJRの敷地であればJRに相談するなどの対応をしたい。</p> <p>【市長】 現場を確認してから対応する。各土木センターで計画を立てており、いろいろ段取りを考えているため、JRの土地であればJRにお願いをしていく。</p> <p>【北部土木センター植木地域整備室 追記】 5月1日、現地立会。ご要望の箇所はJRの敷地であったため、JRに対応してもらう旨説明。5/1JRへ連絡済。</p>	都市建設局	北部土木センター 植木地域整備室

「ドンドン語ろう！ in植木」 平成30年4月26日 植木文化センター多目的ホール 意見交換内容 参加者：61名

No.	ご意見	回答	局	担当課
14	<p>・敬老の日の祝いについて 敬老の祝いについて、今は自治会でお金を出してやっているが、高齢者を敬うため、市としても行政の無駄をなくし、敬老の日に紅白饅頭ひとつでもいいから何かできないか。例えば、市民にいろいろと届く案内を一本化するなど努力すればできると思う。地元ではやっているが、市でも少し考えてもらえないかと思っている。</p>	<p>【市長】 敬老の日については、自治会や社会福祉協議会で敬老会をされている。熊本市としてもお祝いをしたいが、非常に数が多い。去年から最高齢の方ベスト3の方に市長が表彰状を直接もっていき事業を始めた。私が、100歳以上の方全員のところに行くと言ったら、市内に400人以上いらっしゃった。全部は行けないので、男女のベスト3のみになった。今は副市長と手分けして表彰に行っている。</p>	健康福祉局	高齢介護福祉課
15	<p>・高齢化のことについて 20年30年後の高齢化社会、我々もういないかもしれないが、市としても今から準備しなければ遅いのではないか。むやみにごみを捨てる人がいるので、それをなくしたい。また、空き家や一人暮らしなど過疎化の問題もある。元気な高齢者が通りに出てもらおうと地区は安全である。地区を見守ってくれる高齢者を大切に、長く活躍してもらいたい。社会に今まで貢献してきた人なので、市としても何かしてもらいたい。世の中を見ると道路で高齢者が座っていたりする。小さな町でもわれわれはそれを見落としているのではないか。一番大切なのは住みよい社会だと思うので、よろしく願います。</p>	<p>【市長】 20年後には熊本城が復旧するのでみんなで見るまで長生きしましょう。以前、表彰をお渡しした108歳の方は非常に元気でいらっしゃった。多くの方が健康で長生きできるように、何よりも若い人から高齢の方までの方が寂しくない社会をつくっていきたい。地域の方の力を合わせながらやっていきたい。</p> <p>【総務企画課 追記】 誰もが北区の豊かな自然や歴史と触れながら健康でいきいきと安心して暮らしていただけるよう、各世代に応じた健康づくりの推進に取り組むとともに、いつまでも住み慣れた地域で支えあいながら生きがいを持って暮らしていただけるように支援することで“ずーっと住みたいわがまち北区”を目指していく。</p>	北区役所	総務企画課